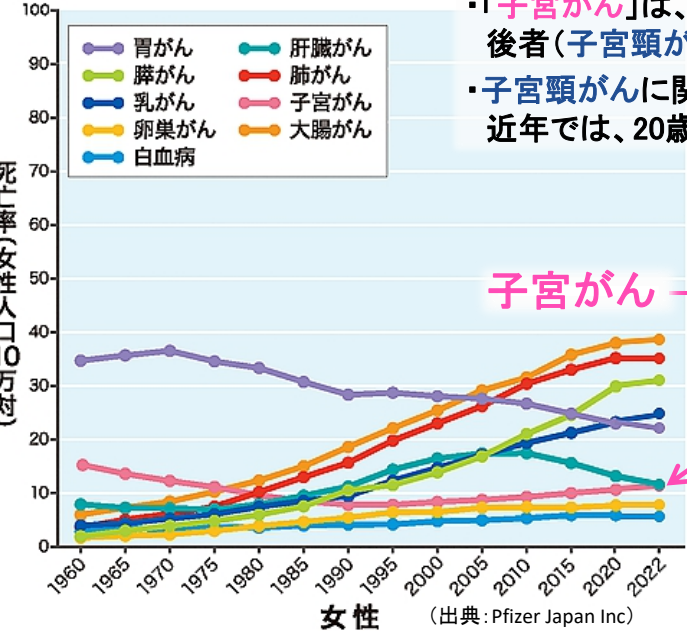


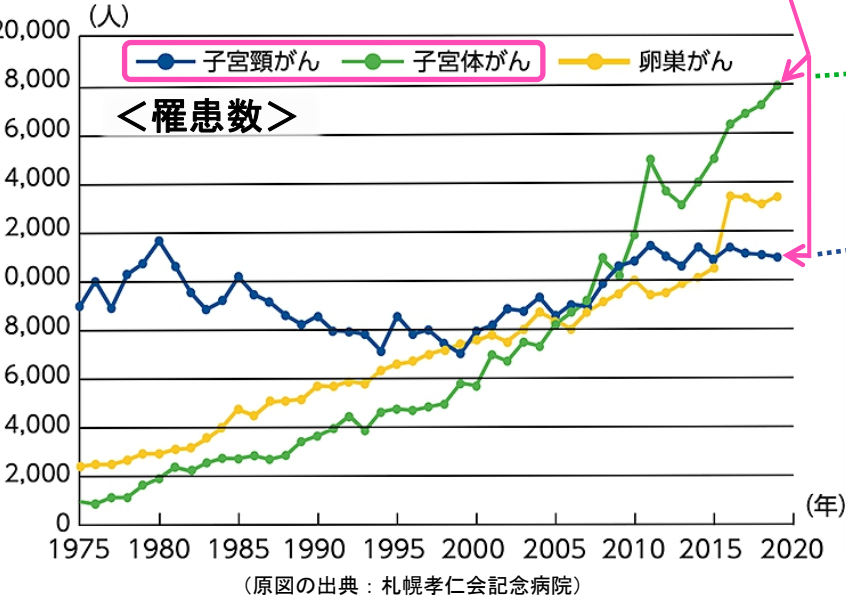
子宮頸がんを防ぐための基本的な心構え

<作成:stnv基礎医学研究室>

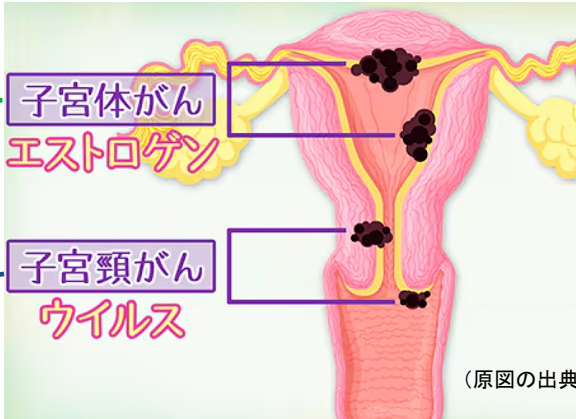
- 「**子宮がん**」は、「**子宮体がん**」と「**子宮頸がん**」の2つに分けることができる。ここでは、後者(子宮頸がん)について見ていく。
- 子宮頸がんに関する大きな問題点は、**若年化**が進んでいることである(右グラフ参照)。近年では、20歳代から罹患者が出始め、40歳代でピークを迎える(右下グラフ参照)。



子宮がんによる死亡者の割合は、他部位のがんに比べると多くはないが、未だに増加傾向である。

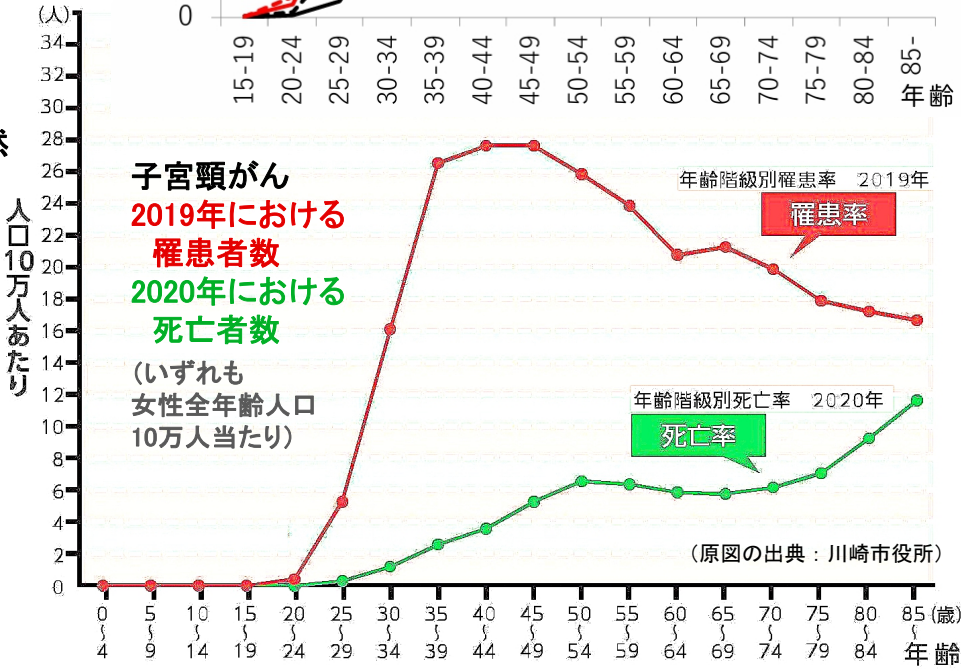
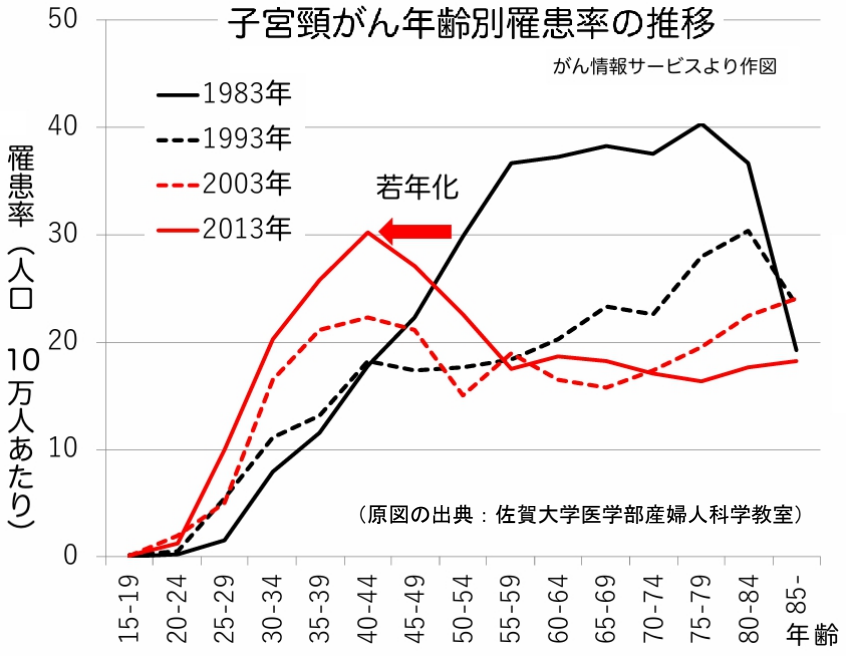


- 子宮頸がんの最大の原因だと言われているのは**HPV(ヒトパピローマウイルス; human papillomavirus)の16型**や**18型**の感染である。
- 子宮頸がんの8〜9割を占めているのは扁平上皮がんであり、**16型**が主原因だとされている。残りの1〜2割を占めているのは腺がんであり、**18型**が主原因だとされている。
- 16型**や**18型**に感染しても、大部分は自覚症状が無いまま、1年以内に約7割、2年以内であれば**約9割の人でHPVの消失**が確認できる。
- 残りの1割の人は持続感染になって、やがて「**前がん病変**」が見られるようになるが、そこから2年経てば、約6割の人は自然に軽快する。
- 2年目以降も、免疫力を含めた体調が良好であれば、自然に軽快していき、10〜20年後に子宮頸がんだと判定される人の割合は**0.15%**だとされている(**10万人当たり150人**)。



(原図の出典: NHK)

HPVに感染しても、**99.85%**の人は子宮頸がんには罹らない。そのようなものを子宮頸がんの原因だと言って不適切なワクチンを推奨してはならない。残りの**0.15%**は**HPVの影響**を受けるようであるが、それは不適切な食生活が最大の原因である。



特に摂取すべきものは、**EGCG** (エピガロカテキン-3-ガレート; 緑茶などから摂取)、**他のファイトケミカル** (参照: <https://stnv.blog/egcg/>)